

点検 鹿島 2018 予算案 3

介護現場で就労体験

午前8時、鹿児島市の特別養護老人ホーム「松恵園」の食堂に、17人の高齢者が集まってきた。「きょうの朝ご飯は卵焼きですよ」。テーブルに一人一人の朝食を配りながら、中間優子さん(66)が声をかける。

中間さんは昨年12月、県老人福祉施設協議会が2017年度に始めた「介護てっだい隊」として、大迫静子さん(67)とともに自宅近くの松恵園に採用された。1日3時間、主に利用者の

高齢者支援

食事介助や配膳、下膳を担当している。

「てっだい隊」の狙いは介護人材確保、高齢者の就労先創出、介護予防推進の3点。中でも「高齢者に社会貢献の機会を提供する」(県老協の吉満誠事務局長)ことを最大の柱に据えている。

初年度は県内16施設が計61人を雇った。

「松恵園には(別の施設で亡くなった)両親と同世代の利用者もいる。毎日、恩返しのためにも議論されてきた。会議が昨年

「てっだい隊」では、専門職

「てっだい隊」の狙いは介護人材確保、高齢者の就労先創出、介護予防推進の3点。中でも「高齢者に社会貢献の機会を提供する」(県老協の吉満誠事務局長)ことを最大の柱に据えている。

食事介助や配膳、下膳を担当している。大迫さんも「利用者の笑顔が力になる。やりがいのある仕事」とほほ笑んだ。

契約期間は2月末でいったん終わるが、2人とも3月以降の雇用継続を希望している。

「てっだい隊」のように意欲ある高齢者が活躍できる場の拡大は、県が17年度に設置した「シニア元氣生き生き推進会議」でも議論されてきた。会議が昨年

「てっだい隊」では、専門職

「てっだい隊」では、専門職

「てっだい隊」では、専門職

によるケアの向上という効果も出ている。

松恵園介護主任の古屋陽子



ん43)は「中間さん、大迫さんが(配膳などの)周辺作業をやってくれるので、余裕を持って仕事できるようにした」と指摘。インターンシップ事業にも関心を示し、こうした波及効果の広がりに期待を寄せた。

県は18年度、インターンシップ事業以外にも「高齢者の生き生き支援」に多額の予算を投入。その総額は265億2300万円に上り、前年度を1億円上回って過去最大規模に達した。健康

松恵園の利用者に語りかける「介護てっだい隊」の大迫静子さん(右)

鹿島市 三宅太郎